滿洲日報

發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)
The Manchuria Daily Report Office. Newchwang.
Telephone No. 29.
Payable in Advance. Postage included.

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登一月者每行每日一角登長年者價當面議
從減 每張四百文

營口共上車三十餘輛 湯車共來七十餘輛 元山六吊九百至六吊八百
一中判洋紙 全百枚 二圓二十錢
一半紙野紙 四十枚綴 十四錢
一卷紙
一卓子 四圓五十錢以上十三圓五十錢
一卓子掛 六圓以上十二圓
一廚房用戸棚 七圓五十錢以上十圓
一箱火鉢 二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢 一對 六圓以上十九圓

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千壹百五拾萬圓

本支店出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

電話 十番 支配人室 百八番 事務室

横濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社 瀛船出帆廣告

千珠丸 仝十五日横濱行
竹島丸 四月廿日 大沽、芝罘、長崎 門司、神戸行

乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ

營口代理店 旗昌洋行 (電話廿六番)

瀛船出帆廣告

日勝丸 四月十六日門司四日市行
頼朝丸 仝十九日入港廿日門司神戸行
日海丸 仝十五日入港

松茂洋行船舶部 (電話五二番)

新荷着

朝日ビール
スペシヤル、ライト
廉價販賣仕候
滿洲一手販賣元
松茂洋行商品部 (電話五二番)

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞啣本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧急之需 本局主人啓

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印井其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋肥皂表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸

運輸部

還般特得官准開設火車轉運行於東西兩店幷牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚

總司理人田中賴之助謹白 電話 東店五五 西店一三

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷 總司理人 葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物幷代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之 正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專營裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

仁裕號

保裝運各幫火輪船生意兼賣各樣洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

丸三洋行分莊

啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋緊身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價值格外從廉賜顧者請光臨本行面閲是幸
丸三洋行分莊謹啓

永順洋行

本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街 東櫃 (電話九十五番)
西義順棧內 西櫃 (電話九十八番)

代代木烟公司

本行專售 日本官造紙烟 星象牌(斯達) 櫻花牌(瑞利) 百合花牌(利利)均已馳名內外玆特選上等烟科加工精製雙仙鶴牌(隆沾來福)清香撲鼻佳美適口而價值極廉 諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大街元採買庶不致誤謹此廣告

本行瀛船

摩耶山丸 頼朝丸 專往東洋各埠

啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東清鐵路公司運送貨物自牛家屯大連至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行幷各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌卑酒日本清酒一概俱全另有清國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷 松茂洋行 (電話五十二番)

三井洋行

電話 第六十六號 第九十一號

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷

○發售新到洋白糖

倉庫部

今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候
(電話百二十八号)

經理

○明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議

○發售日本白米、

○東京水險公司
啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元、分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議

生徒募集

營口瀛華實學院 招入學生

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし
營口 瀛華實學院

本學院肄業諸生頗着成效惟是從去歳常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寛宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白
營口瀛華實學院

東清鐵道 裕和盛運輸局

(電話八十一號)
在東營口西北街旗昌洋行對門

啓者本號向在日本長崎開設數十年幷分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理主人 周鶴雲
運輸部主任 高濱麟太郎 謹啓

材木 荒物 販賣

秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

税關手續

一船舶代理
一貨物取扱
一委托販賣

弊公司昨年開業爾來引續キ營業罷在候處今般一業務ヲ擴張シ艀船、市內貨物運搬及貨物保管等ノ實敏速ヲ旨トシ殊ニ爲替付荷物及諸雜費等御依ニ應シ御立換可仕尚其他精々御便利ヲ相計リ可申候間倍奮御用仰付ラレ度願上候也
營口英國領事館東首 綏定門街第五〇
三仁公司 (電話一五〇號)
小島榮歳

上海 中井洋行

專運日本各式紙料

本行開設已歴多年會與日本製造名廠料有專銷之約凡新聞紙料印書稽各式紙訂莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售 貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也
中井洋

丸重洋行 貨物運輸

啓者 本行前在營口臺賣雜貨已有年今經關東總督府之特准開辦東淸鐵路運貨不論貨種多少以安全迅速誠實廉値籌貨主之利便爲旨 如蒙中外士商光顧請來營口西北街本洋行或牛家屯火車站構內分莊面議不悞
電話 營口 四拾六番 牛家屯 四拾八番

東洋號運貨局

本局新設新民府今經官准由新民府至奉天輕便鐵路開辦運貨凡鐵路運貨比之車運速而廉衆人所知也本局所辦事宜誠實爲旨懇切受托章叟不欺且運費格外公道以籌貨主之利便不論貨種多少論担算或論噸算均可倘有遺失壞本局照價賠償若需客票本局亦可能人代買如蒙仕商賜顧請至本局或奉天支局面議寄貨可也特此週知
新民府輕便鐵路火車站東洋號運貨局本店
奉天輕便鐵路火車站東洋號運貨局支店

新荷着

▲板材木 ▲木炭
▲生石灰 ▲竹
▲亞鉛板 ▲洋釘
▲日本米 ▲疊

喜久洋行
營口永世街八十號 (電話百五十二番)

齒科名醫到營

治療齒痛之法爲衛生上必要之一端尙未可以等閒視之也然本埠竟無良醫余甞深以爲憾頃二志士特請居留天津之齒科名醫田添豐二君來營即在舊高田洋行內從事治療先生前在天津法租界開業久爲中外人所信服其技術之良否於不復贅如有患齒疾者請速至該處診視愼勿失此機會特此擧怖
營口有志者白

太古輪船公司

啓者本公司自派溫州牛莊兩輪專走營口登州龍口一往一來接續不斷搭客配貨均由本行瑪頭上落甚屬利便水脚素來公平船上應酬搭客無不週到歷經數年遠近馳名知者稱便用登報端以期廣告
營口 太古輪船公司

倫敦電報

●**平和會議の延期請求**　米國政府は佛國政府の協力を得て露國政府に對し第二回平和會議の延期を請求せり是れリオジャネロに於て開かるへき米大陸大會との衝突を避けむが爲めなり

●**駐コロンビヤ獨公使の親任**　在北京獨國公使館書記官フイルスト男爵はコロムビヤ駐剳獨國全權公使に任せられたり

●**伊國噴火慘狀後報**　伊國ヲトジャナの村落は降灰中に埋沒され村民二百名の生命危殆なり火山は再び活動を開始し昨夜は硫黄と沙とを降らせりトレ、デルグレコ、及びトレ、アナンツイヤトの兩村落はネープルより切斷され往來不通となれり多數の新聞通信者は前記の兩村落に在りて進退谷まり居れり（以上四月十一日發電）

●**同上別報**　ベスビウス噴火山附近數哩の地方は實に慘憺たる光景を呈し青き草木の殘れるもの無し附近の町村は降灰の埋もる所となり或る村落の如きは降灰六尺に及び坐ろにポムペーの舊事を追懷せしむ死者の數は確知すること能はさるも五百以上八百迄ならむ暗雲四面を蔽へベスビウスの噴火山は隱れて見えず只た屢々燒石及び灰沙の渦捲き來ることあるのみ（四月十二日發電）

雜報

●**大連の諸關係を論す**（三）　大連柳坡散士

（三）大連と柳樹屯

大連灣は東京灣の半分大の灣にして灣內自から三大灣を爲し、ハンドベイ、ジャンクベイ、ブイクトリヤベイ、と呼び灣口に、ヲジンコウブ（大崗口）と名つくる小灣あり灣口に三山島あり其口を扼し大連灣西口と大連灣東口とに區分す灣內の中央に一半島ありジャンクベイとハンドベイとの區別を爲す之れを和尙島と云ふ島の西岸に柳樹屯なる小市街あり之れ則ち李鴻章の旅順軍港經營と共に此地を以て陸軍兵營と砲臺を設け長棧橋を架し大連灣と改稱したる地也日清戰役の時我か軍の上陸したるは此柳樹屯なり今日の大連市は其對岸に相對して青泥窪と稱したる小漁村に過ぎさりしを露國經營後ダルニーと稱し昨年二月十一日我國に依りて大連と改稱せられたるなり

柳樹屯は清國に依りて軍事上に經營せられ青泥窪は露國に依りて商業上に經營せられたり露國の大連灣經營は頗る大規模にて決してダルニー築港築市のみにあらさるか如し殊に柳樹屯より老龍頭一帶に兵營を建設したるは最も注目す可き事にして彼露國に數年の日月を與へしならは金州全島の地峽帶の防備完成し到底今回の如く容易に大連を占有する能はさりしならん露國の關東州經營に數年を出すして希望する丈の事を一時に着手する能はさる事情存在せしため柳樹屯の軍事經營は其一歩を進めたるのみなりしならん我國は占領後遠淺にもせよ之れを利用して步兵の上陸と還送を爲せり柳樹屯にして遠淺ならさりせは船舶の碇泊には大連より極めて安全に西北の風浪を避け得へけれは露國は必す之れか經營を斷行せしならん清國か先きに和尙島老龍頭等に砲臺を築きて兵營を設けたるか如きは其當時の防備としては見繕ありし措置なりしなり露國たるもの豈に其間の消息を知らさらんや現に東淸鐵道は大房身より分支線を以て柳樹屯に通せしめ或種の設計を爲さんとせり大連と柳樹屯との過去關係は如此我國今日の大連經營に對しては注目しつゝあるに係わらす柳樹屯を棄てゝ顧みさるの風あるは何の意そや鐵道提理部は既に大房身柳樹屯線鐵道を廢したるか如きは甚た其意を得さるものなり

大連柳樹屯は海上六哩程の距離にて小汽船は一時間にて達するを得陸上より金州城まで二里餘に過きす大連より金州に通する陸上は迂回曲折汽車にて二時間餘を費す可し故に大汽船は柳樹屯に碇泊せさるにせよ支那帆船は柳樹屯より金州輸出入品を卸積するを便とするは勿論なり大連の繁盛は其補助小港たる柳樹屯をも發達せしむ可き性質のものなり我國の殖民地經營者たるもの更に其眼光を濶大にして錙銖の末を追ふなかれ

●**吉林雜觀**（二）　一槎客

贅澤なる吉林

十年前の吉林は風俗樸厚單に豊かなる都會なりき然るにスラーブ風は遠慮なく吹來り土地を風靡し士女を惑亂し質樸なる風俗は一轉して贅澤なる風俗と化するに至れり而も此贅澤なる風俗の裏面には風儀の頽壞あり淫風の般んなるあり露淸合ノ子の增加するありて實に歎わしき次第なり然れども此の如き顯象は豈にたゞ吉林のみならんや北京然り長春然り奉天亦然らんとす贅澤なる吉林人民は自國の雜貨類に尙足せす盛んに外國品を需要しつゝあり現に省城に於ける日本雜貨及外國品の需要は中々多大にして其高直なる驚くに堪へたり扳目なき獨乙商人は浦汐方面より雜貨を輸入し莫大の利益を收得しつゝあり贅澤なる吉林人民は捲烟草を需むるや多大なり彼等は激しき露西亞煙草よりも寧ろ柔らかき日本烟草を歡迎しつゝあり試に市街を散步せんか店頭に日本朝日卷烟草を看ざるなき位いなり江副洋行の得意想ふ可し今後同方面に於ける日本捲烟草の需要や蓋し巨大のものならん城內に十數ケ所の茶園あり演舞絕ゆる時なし數百の飯館あり遊客絕ゆる時なし特に異となすべきは省城に乞食と苦力の僅少なること是れ由來淸國各地の都會は乞食を以て有名なり少きは數百多きは數千に上る處あり嚴冬隆寒に際し乞食救恤は當局爲政の一として數へらる然るに吉林省城に乞食の數甚た少し亦以て下民一般の狀態を想像するに足らん（未完）

●**與倉軍政官の歸署**　日本より歸署直ちに總督府へ出張せられたる軍政官與倉中佐は一昨夜十時歸署せり

●**福永憲兵隊長の歸遼**　管內巡視の爲め來營中の關東總督府憲兵隊長福永中佐は當地視察を終へ昨日午前十一時歸途に附けり

●**井戶川少佐の去來**　新民府軍政官井戶川少佐は一昨十三日來營一泊直ちに總督府に向け出發せり

●**兒玉三等主計正の來營**　滿洲軍倉庫附の兒玉三等主計正は營口遊覽の爲め昨日來營せり

●**田添齒科醫の好評**　天津にて內外人の好評を博せる齒科醫田添豊三氏は本紙廣告欄にある如く海岸元高田洋行跡にて治術をなしつゝあるが日々患者の山をなし非常の好評判なりと云ふ

●**宅台名會社の卷莨賣出し**　澤龜淸酒を以て有名なる宅台名會社にては今度エジプト製紙卷莨インペリヤ及びエキスタラフワインの二種を製造元の莨會社と特約し直輸入廉價に販賣する由

●**本日の日曜說敎**　地藏世街本願寺出張所に於ては定例に依り今日午後一時及八時（一口時間）の兩回に於て日曜說敎を開き（信仰の力）との演題に就て寺本布敎師より說敎あるよしなり又西營口老爺廟內妙心寺派布敎場にては午前十一時より古川布敎使佛說四十二章經の讀講を爲すといふ

●**人物月日**（下の上）　櫻面郞

松倉善家君

其後ち明治卅一年九月、農商務省に於て淸國の商業視察の爲に織田一氏等以下の視察員を派遣するや、彼は會々歸朝して鄕里熊本に起臥したるか、熊本の商業會議所は觀て幸機なりとし、彼に付て其の一行に加りて淸國の商工業を視察し、以て報告せん事を求む、先是彼も亦た機を得て一度廣く淸國の商工業を視察せん希望を抱持せり、即ち諾して蒼惶旅裝を用意し疾驅農商務省の一行に加り、共に淸國各地商工業の實際を視察調査し、翌三十三年を以て歸朝し、委細を商業會議所に報告して大に熊本商工業者の對淸事業の參考に資せり、斯て彼は依賴の任務を終了せると同時に又即ち直に上京して農商務省に出頭し、續々として更に淸國商工業の實際を述へ、北淸貿易の必要なるを論斷し、其の階段として先 地を營口に選み農商務省の直營事業として商品陳列所を開設し、廣く本邦の商品を陳列して住民の觀覽を自由にし、以て其の嗜好心を惹起するの甚た必要の商策なるを詳述して開設を督促し、遂に又幸に其の贊成承諾を得たり、明治三十二年を以て松倉氏か營口に開設せし牛莊商品陳列所なる者即ち之れなり、抑も商品陳列所は先是已に淸國の二三個所に存在せさりしに在 す、然れとも其の陳列所たる何れも其地帝國領事館內の一隅に設置せられたる者にして、由來官尊民卑の流弊甚しき淸國人民に觀覽せしむるには、其位置宜きを得さりしと同時に、漫然として唯た商品を陳列せしに過きさりしを以て、陳列品におても將た價格においても又た種々の不都合なからさるを得さりき、且つ夫れ、領事館に於て周旋督監せる者たりしを以て、凡てにおて勢ひ官廳風たるを免れす、即ち之を例へは、觀覽者に於て觀覽の結果某商品に對して甚た嗜好を生し其買入を有するあり、領事館に付て之を談すれは、領事館は外務省に其旨を通報し、外務省は更に農商務所に通報し、農商務省は更に商業會議所に通牒する等其間の種々の手續と多數の日時を要するのみならす、商業會議所より愈々出品人に紹介すれは出品人は、價格の變動等の爲に依賴に應する能はさる等の事情ありて、往々にして其の結果も甚た面白からさる事あり、即ち單に商業の機敏を欠くのみならす、併せて對手の感情迄も害し、延ひて我か商品の發展を妨くるの患に陷る事も珍しからす、商品陳列の精神は頗る良好なるも、其の結果は甚た感服せられさりし也、飜て明治三十二年松倉氏の營口に開設せし牛莊商品陳列所を觀察すれは、農商務の經營に屬し其の監督に係る者にして、猶は一種の官營事業なりしと雖も別に東肥洋行の雜貨部なる普通商店の陳列所に從屬するあり、陳列所に陳列せる本邦製作に係る各種の商品は、即ち東肥洋行に於て、觀覽者の依賴に應して買入を周旋し引取を受合ひ、乃至輸送料を談し保險料を語り、十分觀覽者の便に任し、大れは其の實際は民設事業と少しも異る所あるなし蓋の從來し陳列所に伴ふ種々の弊害及ひ、缺點は牛莊商品陳列に於て初て除かれたりと謂ふ可かりき、聞らく、松倉氏の初め農商務に出頭し淸國各地の商品陳列場に付き、實地の調査に訴へて種々其の欠點を指摘して非難を加へ、代るに眞正の商品陳列所を以てせさる可らさるを以て、談するや時の當局者遲疑して甚た斷せす、於是急性の彼は憤懣禁する能はす、即ち目を怒らし聲を振して詰責叱咤、遂には場所柄も辨へす、罵詈讒謗を逞ふし三百の痛棒を浴せて顧みす、當局者も其の勢に辟易して到頭其の開設を承諾せりと、而して農商務省の實業練習生なる者も、亦た併せて此時に於て決せられ、即ち彼は商品陳列所の開設を命せらると同時に、淸國に派遣すへき實業練習生の人選をも依賴せられたるか、此の練習生は又た實に彼の獻策に基きて以て決せられたる者と云ふ、尙は聞くか如くんは松倉氏は農商務に出頭するに先ち、伊藤侯大隈伯等の大政治家を歷訪し、北淸經營の抱負を吐露し、其の大隈伯を早稻田に訪問せし當時の出來事に關し、彼の逸話として傳へらる者あり、

●**滿洲座觀劇記**（上）　朴捻生

豫報の通り旅團長仙波少將の懇望に依り滿洲座一座の演劇を大石橋に二日間開演することとなり將軍より特に瀨川領事に書を寄こされ當地在留の有志同伴觀せられたしとの懇篤なる案內あり我社へも亦招待狀を致されたので一昨十三日領事等一行の人々と共に余も同行する事にした一行の人々と云ふは瀨川領事蠟山西稅關長以下關員諸氏區長の諸君愛國婦人會の諸姉等同勢總じて三十余人であつた豫定の八時三十分東稅關の波止場に行つたが領事の斡旋で小蒸汽船に便乘し二十分計りで牛家屯に着船すると直ちに秋本副官の出迎を受け一同停車場に導かれ九時二十五分の特別列車而かも二等客車と云ふ滿洲渡來後始めて氣持ちの好い列車に乘つた殊に此日は天氣晴朗にして春和の長閑を硝子窓より野原を見晴す人々ら雜談をなす人々扨ては學者連中が天下の大勢を論じ所謂氣焰萬丈當るべからざる人も二三見受けた、何れを見るも皆愉快さうな顏付であつた、暫らくして汽笛一聲大石橋に着した爰には奧田大隊長始め鎌田副官其他將校諸氏の出迎を受け鎌田副官に導かれて旅團長官舍に至り一同々應接室に案內せられ入れば中ゝ計りに「皆さん能く來てくれた實は皆さんを營口へ行かねばならぬので甚だ失禮だが何うかユックリ見て下さい」と謂はれて出で去られたり、將軍の何時に變らぬ貴賤貧富上官下官の隔離なき御挨拶には、是れが鬼をも挫しぐ仙波少將閣下かと思へば殊に奧床かしく感せられて自ら崇敬の念に堪へ無かつたのである、後は鎌田副官只管一行の歎待に盡力せらる、氏も又將軍の薰陶を受けたる人其一擧一動將軍の面影をなせる少壯士官にして我れ人共に其厚遇に非常の滿足をしたのであつた、開演には彼是二時間の餘暇あるをて以一同附近の山上りを思立ち招魂碑の山に登り地理の詳しき人は日露交戰の跡を指して種々の物語をなすもあり、又風景を賞しつゝ三々五々或は下り或は上りつゝ時間の來たるを待ちぬ、兎角する中正午となり鄭重なる晝飯の饗に預り終れば最早豫定の一時即ち開演の時間となり副官の案內にて滿洲座に行つた滿洲座は大石橋停車場より約三丁程の西南に當れる廣大なる倉庫一棟を以て之に宛て先づ入口には滿洲座の看板を揭け屋上に登場役者の人名をいろは順に連記し其下に筆太く左の心得を書いてある

觀覽者心得

（一）見物人は凡て靜肅を守る事
但し拍手喝采は此限にあらず
（二）舞臺花道に昇り又は樂屋內に入ることを禁ず
（三）劇場內にて飮食を爲し又は帽子を被ることを禁ず
五）酩酊者は入場を禁ず
右の件々に違背したる者は退場を命ず

投書かご

▲第三樓は入口からして已に御役所的である殊に戶を排して入ると直に目に付くのは黑板に訓示と前書して終りに第三營口ホテル家庭局とあるのは益々御役所風たるを免かれぬが其一つ書を見るに至ては一驚を喫せざるを得ない夫れは藝者仲居の心得書である即ち飯は十杯を超ゆべからず酒は一升以上を飮むべからずとかである女部屋にでもあれは引込めては何うだらうか（穴探し生）▲或歷々の紳士に御尋ね申し上げます二三錢の小賣商店は皆乞食と云ひますか（立聞生）▲先達或急用があつて電話機を幾度も鳴らすけれども中々接續して吳れぬ物の五六分も經つと思ふ頃に漸く寢ボケたやうな聲でアヽ〳〵と答へがあつたので何番に接續して下さいと言つて接續して貰つたら今度は御門違いであつたんで參拜九拜して御斷りをして更に繼換して貰つて漸く話が出來た斯ういふ事はもう始終有勝ちの事である何時も主人から貴樣の電話は大變時間が掛るなぞ〳〵小言を喰ひますが獨り私許りで無く此頃は大抵の處が皆さうのやうす交換手さんもう少し勉强して下さいな（困つた生）▲貴社の朴捻老樣は周易判斷で大層御年寄りの御方だと許り思つて居ましたら先達汽車の中で始めて御見受け申しまして本當に喫驚致しましたよアンナお若い御方が爺々臭い事許り言つて厭やらしいこと子（汽車中の一婦人）

一身孤劍遊邊外　犀陽

一身孤劍遊邊外　耕田疑井柳楊村
長櫃久無雲陣屯　空懷接人笑語溫

偶逢邊外西風急

行盡大原幾十程　長沙細柳一新淸
偶逢邊外西風急　吹到日東作雨更

邊外却更山水美

曉天行唱拂塵歌　日暮前程撫柳過
邊外却更山水美　白雲牛處寺院多

塞外春溫進馬時

塞外春溫進馬時　誰知塞內雪風吹
追懷旣往播靑史　想像將來黃口兒

迷惑黃昏問路繁

廣漠原頭細柳屯　寂寥沙上老楊村
春風捲土天將暗　迷惑黃昏問路時

支那美人　江南

ともすれば亂れむとする黑髮を　結ぶ赤糸狂はしの色
桃咲いてやさし十五の血はゆらぎ　柔手に赤き溶紅の色
春風は緋牡丹挿せる髻華に滿ち　耳環明玉搶々輝る〳〵
緋桃霞む村へと急ぐ驢馬の主　里かへりの君頰かはる君
化粧なりて萌黃の桂緋の袴　故山の春に華美の君

家五句　盧空洞

棟上けの幣ちら〳〵と東風か吹く
椽先に摂り出されたる土筆かな
靑麥に取巻かれけり家十戶
萱葺の屋根に一株花菜かな
切れ紙鳶を喰ひ止てけり鬼瓦

●**營口花信**　金物盡しで勿體を付けた某料理店の金何とかいふ黃金佛は江戶ツ兒で、中々愉快な、捌けた、容貌も相應に見れる、面白いニャン公であるが何時もお客は一度切りで馴染客の一人も無いのは變だといふので段々探りを入れて見るとお客が一度で往生するのも道理小夜闇けて將に無我の境に入らんとする刹那朝日に匂ふ山櫻にはあらで谷間を漏れ來る一陣の淸風、宮商五音以外の奇聲を伴ふて寢耳に水ぢや無へてプンと寢鼻に異臭を振舞はるゝのが惡癖で、てれには如何なる鼻下長も愛想をつかさずに居れぬさうぢや併し傾城の色香とは斯るをいふなんめりとて滿鮑の餘香を朝歸りの淋びしき袂に孕らませつゝ惚氣たつぷりの好事家も此營口なれば萬に之れ無しとも限らされば此御注進によりて必ず落膽し給ふ勿れとは一杯喰はされたる戰牛お馴染の直談である

大連汽車開行

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇
山海關至天津	上五、〇〇	下五、五五

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一
北京至塘沽	下二、四〇	下八、三〇
天津至[illegible]	[illegible]	[illegible]

梅毒婦人科　外科胃腸病　全身麻醉局處麻醉新器械無痛手術
專門日本醫院

稅關手續
一、船舶輸出入荷物取扱
一、荷物保管
一、日本郵船部、回漕部
一、爲替附キ荷物ヘ便利ヲ計リ可申候

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
營口シブ口綏定商會門
喜川鐵工

天氣

營口地方天氣豫報　自十四日午後六時至十五日午後六時
南の風晴れ

小說

新作小說 **おとし風**（三十七）　德田秋聲

「はい、大嫌だとかいふ蔭沙汰でございます。最も數馬さんも、光が、大層お氣に適ッて居られるのださうでございます。」

「那子もの。」と後室は、歎息するやうに謂ッて、「兎角何んぢやの、男といふものは、顏でも少し美しいと氣に適ッて了うと見えますの。雖然何んぢやよ、數馬には、那女は姪ぢやで、豈夫淫なことはあるまいての。」

と御身分にも似つかはしからぬ下素なことを謂はれると、突如に、ひらり人影がした。兩人一所に振向いて、バッタリ默ッて了ふ。

「何うも怪しからんことを謂ッて居られるですな。」とのッさり、椽先に突ッ立ッて、「噓ですよ。嫂樣は、好い加減のことを謂はれるのですよ。」

と快活な調子で聲を掛けながら、無雜作に椽に腰を掛けるのは、海鹿子爵の末弟なる數馬であッた。尙だ工科大學に籍を置いて、來年卒業といふのであるが、學生氣質の、至ッて平民的の氣風。ネルの單衣に、薩摩絣の長羽織、縮緬の兵子帶をぐる〳〵卷に、少し左の肩を聳かして片手にラヘルを摘むでゐた。漆のやうな頭髮を奇麗に梳いて、年頃廿七八。色白で、而も凜々しい顏。

「お前、今日はお休日か。」

後室が、數馬に對する時は、何時も子供の積。

「今日は、日曜です。」と數馬は、スパスパ煙草を吃かしながら、「何んですね、貴方等はまた意地の惡い相談を始めてゐるのですな。お廢しなさい。」

とポツ破抜く。磊落にして直截、一片稜々の剛氣は眉宇に動いて、全て何事に依らず齒に絹を被せぬ性分。彼は、設や王侯の前にも自ら信ずるところを直言して憚からぬのであッた。而も心の底を叩けば、淚もろくして同情の念に厚い。されば、彼が正しきに組する心は、日頃から、母御等の光に對する仕打を苦々しいことに思ッてゐたのであッた。

此の人の口にかゝッてはと思ッてか、夫人は、傍を向いて聞かぬ振。てれがくしに冷たくなッた茶を啜る。

負けぬ氣の後室は、聞捨ならぬといふ風でづいと體を乘出し、

「意地の惡い相談とは、何んのことぢや。誰も意地の惡い相談はして居りませぬ。海鹿の家の爲を思ふて……それで何んぢや。那の光といふ子の、那女に餘り增長せぬやうに爲し貰ひたいと謂ふて居るのぢや。」

「可かんですよ、それが大きに可かんですよ。阿母樣は、何うも片意地で困る。」と頭から、ぐわんと喰はせて、「光さんが、何うして增長して居るのです。何處に增長してゐる點があるのです。那の位遠慮して居れば澤山です。」

「其方はの、尙だ年が若い。」と後室は、嘲けるやうに謂ッて、「それで何もお解りでないのぢや。」と後室は、「默ッてゐたが可い、のう。子爵が、近頃の逆上せやうといふは別ぢや。何さま光は、血を分けた娘であらうがの、隱兒ではありませぬか。謂はゞ私生兒といふものぢや。本來ならば、隱して置くべきぢやに、それを正腹に出來た姫のやうに、嗣子とは何んのことぢや？それも可いとして、今度の園遊會は何んのことぢや？……其方は知るまいがの、今度の園遊會は、光の誕生のお祝ぢやとよ。」

「知ッて居ります。」と數馬は、無愛想に謂ッて、「それが、何うして海鹿の家の爲にならんのです。」

「解らん人のう。考へて見るが可い。光のお祝に皆樣をお招き申すのは、ても無く、自分の恥を自慢にして、明味へ出してひけらかすやうなものではないかの。」

「其樣なことは、無いです。そりや兄樣の行方が至當です。一體貴方等は解らん……俗にいふところの、わからずやだ！」

●**骨董錄**　支那の宦官は春秋戰國の頃から歷代宮廷の蠹毒であつて時の庸君暗主を飜弄し或は賢宰良相を中傷し或は外廷の奸臣と通同して政權を擅まゝにし或は君主の聰明を壅蔽して民の怨を招き其結果天下の大亂となり延いて國祚を短かゝらしめた事例は支那史を讀む者の常に切齒扼腕する所である。元來宦官なる者は常に九重雲深き宮廷內に居りて日夕君側に接近し起居飲食一擧一動皆關知せさる所なきを以て其君主の性情より起居の習癖。衣食の好惡の微に至る迄詳悉せさるはなしだ。故に君意を迎合して巧は佞媚を呈し次第に親近せられ終に嬖倖を專らにするに至るのだ。剛明雄斷秦の始皇の若きすら宦者繆毒の爲めには殆と母子の間鬩釁を失ひ宮廷の醜聲を外間に漏らすの禍に罹つたではないか。歷史は繰り返へすものなりとの言を眞理とすれは何んでもない樣なもの、支那歷世の君主が前代の段鑑歷々たるにも拘はらず尙は懲りずまに宦官を親近するのは實に支那國民の爲めには千古の一大恨事であるだらうと思ふ。北京宮廷內の一大勢力として聞へたる宦者李蓮英は先頃失職者となつたとの噂を聽き快心事と思つて居たら其後此噂を取消し彼は依然在職せりとの風說ありて聊か呆然たるの氣味ありしが此頃又李は巡警務部尙書徐世昌が曾て宦官廢止の議を君皇に上奏したとかにて深く徐に怨を啣み居りしが李は會々徐が宮中に參內せるに逢着し徐の面部に鐵拳を振舞ひ支那人に不似合なる日本壯士的の暴擧亂動があつたさうだ。すると此事忽ち西太后の叡聞に達し逆鱗に觸れさしも多年嬖寵を蒙りし李蓮英も即日免官となり崔某なる者を擧げて大宦總監の職を襲がしめたりとの事近着の新聞に見へた。して見ると李の退隱は今度そこ事實らしいが併し崔は如何なる人物であるか知らぬが何れ宦官杯を志願する程の男であるから多分第二の李蓮英であらふから所謂朝三暮四と云ふものだ（蒼然逸人）

廣告

競爭入札廣告

第一號 一搗粟 約四百石　第二號 一籾粟 約六百石
第三號 一稗 約六百二十石

以上入札保證金各自見積り代金百分の五以上右賣却す買受け望の者は四月十二日より四月廿六日迄に當支倉庫に出頭入札心得書、契約書案、及現品熟覽の上四月廿七日午前十一時迄に入札書を當支庫に差出す可し即時開札す
此契約は滿洲軍倉庫奉天支庫長橋元勝造擔任す
明治三十九年四月十二日
滿洲軍倉庫奉天支庫

森病院
一診察 自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より
▲患者の入院治療を諾す
▲貧困患者の施療は正午十二時より二時迄
妊婦の入院を諾す（產婆大道しげ子）
院長 醫學得業士 森矯
副院長 醫學得業士 長船郁太郎
◎院長森矯久敷歸朝中の處今般歸營診療に從事す
◎本院齒科開設 齒科醫 兒島市郎
本月十五日より開設す　**森病院**

爲替劵盜難廣告
弊號（聚豐隆）は先に遼陽東昇廣より爲替劵廣元號聚豐隆名下營平銀壹千七拾兩營口永遠興の支拂に係一通及仝地天和福より宇字百六十二號聚豐隆名下營平銀五百三十五兩營口廣順棧の支拂に係る一通又弊號（廣興義）は遼陽公立公司公字二號泰峯鎭名下營平銀壹千七拾兩營口匯源棧の支拂に係る一通を受け以上三通を遼陽より聚豐隆の客王輔臣に托し淸曆三月九日遼陽より瀋軍に乘し牛家屯に達せんとする翌午前一時頃車內にて盜賊に刼かされ前記三通の爲替劵及所持金を奪取せらる依て前記三通の爲替劵は何人の手に渡るとも全然無効に付茲に紙上を以て特に廣告候也
月　日　遼陽 廣興義 聚豐隆

齒ノ衛生治療ハ一日モ等閑ニ附スベカラズ然ルニ當營口ニ良齒科醫ナキハ予輩ノ常ニ遺憾トスル所ナルヲ以テ二三有志者相謀リ在天津ノ該科名醫田添豊三君ノ出張ヲ請ヒ河岸通リ元高田洋行跡ニ於テ本日ヨリ約三週間治療ニ從事セラルヽ事トナレリ君ハ夙ニ天津佛租界ニ於テ開業シ內外人ノ信用ヲ博セラル其治術ノ巧否今復之ヲ贅セズ齒患ニ艱メル諸君及齒ノ衛生ヲ重セラルヽ諸君ハ此ノ好機ヲ逸セズ陸續君ガ治療ヲ受ケラレンコトヲ望ム
四月十二日　**營口有志者白**

M. Iizuka,
Contractor,
Architect and Civil Eginneer.

Plans and specifications made to order.

Estimates submitted.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

一料理用白味噌、赤味噌、
一煙草類、東京淺草海苔、木炭、萬醬油、白米、上等鰹節、
罐詰類、
一瓶詰雲丹、酒盜、コノワタ、
一清酒澤龜特約、並に瓶詰、
一酢、ビール、葡萄酒、洋酒類、
其他日用品乾物雜貨新荷着仕候に付多少に拘らす御用仰付られ度伏て奉願上候也
東營口永世街第廿八号
雜貨商 **大原洋行**

時下艶春花を見るの好時機と相成候處各位益々御淸康の段奉賀候降而弊閣儀料理部開店以來幾多諸君の御愛顧を辱し深く御禮申上候隨而今回旅館部開設いたし室內の衛生裝飾等細大漏らさす御客樣への御便利を充分注意致し候間重ねて御引立を蒙り度此段伏而奉願候　敬白
營口二本町
祇園閣旅館部
主人（電話一四四番）
各位

御手輕料理
一釜飯 御一人前 五十錢より
一卷壽し 一本 十五錢より
一湯豆腐 一壺 廿五錢より
一東京壽し 一人前 卅五錢より
右之外御誂に應す
月　日
營口元神廟街二〇九號
翁亭

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館 **東京樓**
店主 熊田兼次郎（電話百七十八番）
即席和洋料理 **東京樓支店**（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需に應ず

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放仝時一開業
奉天小西門外大街路北

瀛船出入案內
日勝丸 門司、四日市行 十六日出帆
英航丸 神戶行 十八日出帆
能登丸 十九日入港
今回內地去る十日出帆の盛航丸を以て韓國經由牛莊定期航路開始候に付御案內申上候
（神戶、門司、仁川、大連、牛莊）

大阪商船會社荷客取扱所
內外船舶代理保貸借仲立
輸出入稅關手續
解船人夫運搬請負
諸品委托賣買
水陸輸送貨物仲次所
倉庫業
西北街 **德重洋行**

和洋御料理 一力
舌代
弊店儀開業以來各位の御引立に預り日增隆盛に赴き候段奉鳴謝候隨て今般各位御愛顧の萬分一に酬ひん爲め內地より有名の料理人並に藝者仲居を呼寄せ殺風景なる滿洲に得難き珍味と快感を相供度座席裝飾に至る迄凡て一新致候間續々御來遊被成下度奉希上候
樓主 敬白

料理
滿月 平の町（電一六二）
滿月支店 平の町（元都樓跡）
店主 吉本[illegible]

和洋會席 **御料理**
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
營口永世街二本町
日本館（電話百三十）
各位樣

料理部開業披露
弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就ては座敷向き等も凡て改築仕日本式の粹を拔き藝妓仲居も弊店付として內地より二十五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の廚士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈〻本日より安直を旨とし開業仕候間何卒賑々敷御來遊の程備に奉希上候
追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候

旅館 第一營口ホテル
料理 第一樓（電話八四）

廣告

當公司今般業務擴張の爲め特に敏腕熟練なる技術者數名を聘し公私を問はず和洋各種の建築及土木事業に關する製圖設計監督の依托に應じ最も懇切敏速に處辨す

建築部主任技師工學士 森川範一
土木部主任技師 永原万吉

營口元神廟街第百七十二號(電話一七三番)
土木建築請負業 井上公司

萬代不朽 毛製屋根瓦ラバロイド及リサイト販賣廣告

ラバロイドルーヒングは堅牢にして極寒炎暑の候に耐へ如何なる地にても不適の場所なく雨破損漏水の憂なく良く極寒炎暑の地に適し床及階段等の敷物に有効なり
リサイトは室内裝飾塗料にして通常ペンキの如く臭氣なく褪色の憂決してなし

米國紐育スタンダードペイント會社東洋特約一手直輸入販賣元穴原商會營口特約販賣店
營口元神廟街第百七十二号(電話一七三番)
井上公司

醇良自釀清酒

エジプト煙草
インペリヤ(金口)
ヱキスタラフワイン(キルクロ)
右特約仕代價吝精々安價にて賣出し候間多少に不拘御用命被下度候

牛莊港東營口
宅合名會社營口支店

新春夏新柄反物
新婦人用帽子襯衣靴下小間物
最新雜貨
着荷 新着荷
並に附屬品　勝月堂寫眞版　風月堂羊羹　鹽湯利用香煎各種
天盟洋行
(元神廟街雜貨商)
(電話百三十七番)

銘酒 白鶴
諸雜貨
今般新荷着仕候に付ては卸小賣とも是迄の賣直段より壹割引
酒及米、鑵詰類は五歩引を以て販賣仕候間多少に不拘御用命被仰付度偏に奉願候 敬具
營口元神廟街 井門洋行
遼陽西門外 仝支店

木村寫眞館

最新流行之寫眞撮影法に附ては叮嚀且迅速を旨とし光線の配合及位置等に尤も注意をなし各位の御嗜好に任せ撮影可申上候
弊館は更に一大勉强をなし價格の廉なるよりも進で調製方を叮嚀になし寫眞一組毎に一枚を相添可申候事に相定申候
營口二本町

弊一座儀三月九日より開場可仕筈に御座候處道具廻り等不着の爲め日々に延引仕大方樣の折角の御厚志に反し洵に申譯無之就ては愈々開場當日には座員一同御詑旁市中廻り可仕候間該日を初日と思召し續々御來覽の榮を給はらん事を偏に願上候
岡本千代花一座

日本有名秘藥物發售廣告
婦人用香水髮油及一切藥料以上各貨價值尤格外克己顧者請即速臨否則以德律風
營口永世街回春堂滿洲總售處 大阪谷回春堂本店
從廣招徠凡在日本內地士商賣買均可
同三木天壽堂大藥房 大洋行 此告白
(電話百九十番) 啓

大日本帝國有名方劑 化粧品 一賣 小賣 切藥
右内地同樣の御事なれば多少に不拘御注文被下候へば直に持參可仕候
營口永世街 回春堂滿洲總售處 大阪谷回春堂
同三木天壽堂大藥房 大洋行
(電話百九十番)

發賣 材料木 標子 木版
塩川商會
電柱用材杉丸太長(自二十六尺至三十尺)八十本
用材北海道産松大角(自廿五尺至三十尺)二万立方尺餘
外に右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也
遼陽小西門內 鹽川商會
●建築
清國營口二本町二五五號
主任 鹽川峯吉(電話一三六番)

大日本東京
本舖 山崎帝國堂藥房處修
腦丸
腦丸者天下唯一之腦病靈藥也 腦病の名藥にして他に類なし
天授
天授者天下多多有咳嗽藥中之冠也 たんせきねつさましの一切の妙藥
大清國
醫有名靈藥械材藥 福壽堂大藥房 總發賣處
營口大街(永世街二本町)
藥司洋行 淺野爲三郎 藥劑士
總批發處

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

胃腸病新藥
消化劑 糖化素
醫學得業士 矢島氏發見
滿洲特約一手販賣
東瀛大藥房 營口大街
本劑專治脾胃失調飲食不化之諸症飯後脾胃疼痛過用米麵積滯腹瀉脚軟心驚婦人懷孕患嘔吐之症熱病稍愈腸胃未至於調和又如停食胃口不開肝胃氣痛肚腹膨脹兩便苦澁之諸症均有卓効
發明者日本醫學得業士
矢島猴太郎 謹白

大日本帝國醫科大學模範藥局御用
攝津灘石崎合資會社釀造
澤之鶴
醇良清酒
滿洲特約大販賣
周
清國營口西北街
裕和盛號支店
電話八十一番
大連湖北彩票毎日賣出
東清鐵道裕和盛運輸局
○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種
○支店韓國京城、仁川、木浦、旅順、鐵嶺、
○支店清國、芝罘
○本店日本長崎梅香崎
裕和盛は 清商中日本通の張本！
澤之鶴は 既に定評ある美人錄、

廣告
●金露印日本酒七百樽
右來る四月廿一日正午茂生洋行(イー、エー、サーザエント會社)構内に於て競賣に附し可申候
競賣人 ヂエー、コツク

質屋營業
精々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候
營口永世街南憲第三十六號
北斗洋行質屋部

市場北三階樓 時計店ノ二階 宮原公司

專件

營口創辦國民捐章程十條

倡辦宗旨

一庚子賠欵數鉅期長實中國目前要患現經聯約同志仿省垣及京津等處辦法倡興國民捐以激厲人心發揚忠愛爲宗旨　二倡辦國民捐爲營口紳商共發宏願各盡義務將來無論捐數多寡皆由衆力贊成不敢據以爲功邀請奬叙　三此項捐欵爲國民自願輸將承辦及經募之人每遇同志親友必剴切指陳多方誘掖此外或登報廣告或分任演說使聞者動心人人以國民自期熱念所出莫能自禦不得有勒抑科派等事　四國民之稱名譽甚高納捐之人必具有國家思想同心戮力視國爲家此實中國自强基礎勸募諸員共知此義自不致借資權力自隳天職

捐募規則

五所收捐欵擬向日本定製雙聯執照若干張發給各號商爲收捐之據　甲此項捐照用潔白堅紙精緻花紋上刻國民字樣以杜贋造　乙用双聯捐照於騎縫處編定號數左半存根備查右半塡給捐戶　丙此照臨發時兩半各塡捐戶姓名捐數以備稽考　丁捐戶領照回家許其粘貼門閭誇示鄉里

六此項捐欵俟有成數隨同照根彙交省城官銀號存儲由官銀號發給收條以昭核實　七營口公會經收捐欵謹遵戶部所定銀行代收國民捐章程辦理惟經收之號既係陸續交清所有原定出息一條應免置議　八國民捐之舉本皆零星湊集積少成多惟殷實商民之中儘多好上急公之士其有捐數較鉅者宜稍有鼓勸以示旌別日本赤十字社及同仁會章程凡捐助會資定有各色徽章似可仿辦擬預向日本定製徽章略分四等視所捐多寡除塡給捐照外奬以徽章許其隨身佩帶所定徽章列後　甲捐洋一千元以上者奬金製徽章一枚　乙捐洋五百元以上者奬銀製鍍金徽章一枚　丙捐洋一百元以上者奬銀製彩色徽章一枚　丁捐洋五十元以上者奬銀製銀色徽章一枚　按各色徽章在日本定製價值極廉將來此項貲費即由捐項內開除列報

經收員商

九此舉由官紳協議組織而成職道等責無旁貸自應就近經理所收之捐平日由公會收存積有成數由職道等按批解省仍將所收之數分季造册報查　十所有經收公議會首等皆營口著名巨商衆所信服其字號及經理人姓名開列於後

東永茂東潘達球　西義順執事王耀二　東盛和東葉應增　厚發和執事闞景三　協成乾執事翟仁山　仁裕號執事高永祺　裕盛源執事竇樹瀛　以上十條爲暫時試辦章程如續有更定再當隨時禀明立案

倫敦電報

●美國要索平和會議之緩期　此次美國政府得法國政府之同意對俄國政府要索第二次平和會議之緩議以避與美大陸大會之衝突云

●德書記調任公使　駐京德國公使館書記官富以魯斯多男爵此次特陞調爲駐古倫比亞德國公使云

●意國噴火之慘狀　日前在意國撒斯撒烏斯山俄然噴火慘狀莫名　日皇即電致意皇慰問其死妄之菑一事已誌昨報聞嗣後火尚未熄不時鳴動沙石飛降黃烟漲空大地暗澹不見日光即如窩拖嗟拿一村全歸埋沒又如某某村落因降灰與業補魯斯府交通全然斷絕訪事員在該地者爲失進退云並聞撒斯撒烏斯山附近凡數十里之間光景最慘滿目蕭然所有埋沒各村落降灰積至六尺許人畜死傷無算殊爲慘狀云　(以上西四月十一日發)

中外要聞

●俄擬築路　傳聞現有俄人在長春召募工役運來木料興辦長春到吉林之鐵路蓋我國未向俄國承認此路權然俄國妄用强硬手段開工築路以理論之頗係難信雖然俄國橫恣暴行目無公法者未可照常規而論故此說未可視爲無據之風說也凡關心時務諸公不可不留意俟探悉再錄

●德相病容　德首相俾羅公爵現病雖俏輕但非俟數旬後恐難辦公

●不募俄債　德國各銀行均對俄國新募外債一節不肯召募托辭德國現將於英京倫敦現於日內召募外欵恐力難兼顧云

●設製鐵廠　江蘇鉅紳商部顧問官張殿撰謇夙注意于商務興辦公司者已不一而足頃見洋鐵進口不免利權外溢籌集鉅欵擬開設製鐵廠抵制洋鐵以保全利權前已具禀江督立案並請妥爲保護現聞江督刻已與商部磋商允准該廠所用材料均減進口稅以示皷舞商情

●德銀行宴中國欽使　中國出洋大臣端戴兩欽使關於德國對中國之情誼甚形感荷又柏靈德亞銀行邀請戴端兩星使並中國駐德欽使與德國各銀行總辦等約有五十餘名筵宴正宴酣時戴欽使起舉杯爲壽曰凡銀行之爲業不但裨補財政界實能使國際關係情誼益密謹爲銀行祝云云

●黑龍江爭森林利近聞　黑龍江將軍程德全軍帥前經電致外務部以呼倫貝爾城一帶之林木原爲官業之大利源現派員調査葛爾巴列山等處忽被俄官阻止請即與駐京公使磋商一節昨由唐聯兩侍郎赴公使署面商此事而該公使以中俄條約既未議結該處之林業究不知何國興辦此事應從緩議

●南昌教案三十八志　外間謠傳南昌教案胡撫自請議處之摺奏業經廷寄定爲革職留任處分然未奉有明文日昨探聽消息乃知係外間擬議之辭須俟教案了結之後再定該省文武各員之處分也

●調查教民　聞政府消息昨發電於各省督撫查核教民數目以及生業財産造具清册咨送外務部以備存案等語

雜報

●海賊橫行　昨日確詢南來人云蓋州西南歸州地方距城約九十淸里於前數日晩間有賊船三隻蓁地登岸七十餘賊大肆猖獗沿捐六處鄕村猶未飽其慾壑次日竟綁富民三十餘名作爲質[illegible]載往僻處勒限取贖迄今未聞贖回富日向鬻時分又遇本港南去民船五隻潛於海曲避風亦俱被刦脅乘以去竊聞該五船實有埠內于姓一船埠外牟姓一船其三船未詳容俟續訪

●委創魚業公司　本埠西南遼海壹帶近數年來每逢海市網魚之際多有水賊乘時出沒綁票捐船不勝其害雖有本埠軍憲兵輪及河北巡警營兵隊時常出海尋剿奈兵出賊遁無蹤兵入賊來愈肆幾有鞭長莫及之勢昨聞官場人云省垣趙次帥籌於本埠創設魚業公司用保沿海往來魚販商船一切特委黃金山太守總辦該司昨日黃君進埠帶來十數從人嘵假館於魁茂樓聞向軍憲投遞照會公文後即購備巡船選募兵勇急爲出海梭巡云

●夢遊不返　本埠第四派遣所所屬二官塘西南巷聞有姬姓老嫗年逾古稀而體健精神百千罕有昨夕尙懽然擬於今日携孫女輩往醫院引種屏瘟藥水詎於夜間一寐不醒今晨子媳等近前定省乃奄無氣息不知何時竟長逝矣於是舉家號慟急以衣衾停寢備棺含殮遂設鼓樂治喪云

●陶觀察洵外交老練家　奉天驛巡道陶杏南觀察自涖任以來整理政務大爲趙軍帥所依賴兼攝交涉局商務局工務局各要職其辦交涉事也以老練圓熟之手腕謀日清兩國之和協邇來奉天各地遇有日清交涉事件靡不平和解決信哉陶氏之爲外交老練家也

序說

送韓濂青之山西序

稻垣伸太郎稿

方今學界之風潮大抵拘舊學者以新學爲謬妄昵新學者以舊學爲迂疏是清國上下之通弊也其修舊學而不拘舊學修新學而不昵新學渾然融化能爲當世之用者如吾韓濂青蓋不數數覯濂青湖北黃州人也夙承家學長遊京師就學於東文學社東語已通而又博涉東書凡世界之情形自學術技藝以至政治經濟莫不知焉莫不能焉夫濂青修養旣已有素而資以日進之學所謂修舊學而不拘舊學修新學而不昵新學者豈非其人耶濂青已畢業會滿洲日報之創刋聘主執筆之任予亦尋承乏編輯始與濂青相識其人則溫雅清瞻且以磊落之襟懷毫無城府其文則滔滔如懸河最長議論好引證東西之事例立論有據筆鋒犀利不可當我報因以得發揮精彩者一濂青之力也今也我報賴濂青以增重濂青亦欲爲我報益吐露胸中蘊蓄而一朝見羅將遠去而赴山西是我報不幸而亦即濂青不幸也然我報特設清文欄其旨意實在開發清國風氣濂青之去雖實可惜而以其所學敎導山西之子弟以其所修鼓吹山西之士大夫亦足肩開發風氣之責初與我報旨意毫髮不渝而濂青復於此行漸得伸其驥足是宜爲濂青賀不宜爲濂青弔也況濂青所薦劉君博聞多才失一濂青得一濂青我報亦不必因以爲憾聞山西即古晋地雖據天府佔形勝而地僻路阻受文明之風潮最遲民人動輒頑迷構難且北連蒙地邊事日繁其風氣之暢否即國家治亂繫焉今也濂青以其學與才涖任斯地以其所蘊於我報者施之於山西則闔國面目靡然就新是蓋其嚆矢也濂青之任不綦重哉往矣濂青勉焉是爲序

文筆跌宕夷猶古樸有味與昌黎諸序記中頗得神似僕爲稍易數字不免貽點金成鐵之譏然文氣侶覺少順故不嫌僭越冀有以報命焉　紹炎拜讀

NEWCHWANG, SUNDAY, APRIL 15, 1906.

A Kindness That Is Not Wasted.—(Part XII.)

Our Tientsin Senior the "China Times" in its issue on the 10th inst. reproduces a letter sent by the Chief Staff Officer of the German Command who says: "The first party will leave Tientsin and go on board (the transport "Neckar") on April 12th, the second on April 13th."

So in want of anything reported to the contrary, the German contingent that have been quartered in North China must have already embarked for their fatherland, leaving a detachment of about 700 men in Peking and Tientsin, just when the first account of a most serious anti-dynastic and anti-foreign outbreak by about 12,000 insurgents, down south in Honan Province happened to appear in the very same issue that gave the departing troops a hearty send off.

We would have hardly thought of taking such pains in dealing with the matter, had it been only taken at what it is actually worth.

It came into being, as it did, only because Germany did see at last the "madness of her East Asiatic policy," which had been raised to an almost pairful relief against those changes ushered into the arena of world-politics by the late war. But, till the world came to agree upon the outcome of the war, it should be borne in mind, Germany had refused to see her folly. The necessity of events alone had compelled her to repent. She was too wise to persist in the folly of maintaining in North China a large force of troops that was no longer of any earthly use to her. Her thrift as well as good sense were too apparent in this move of evacuation not to be clearly seen and admired. If she had plainly let China and the other Powers know her intended move and had carried it out quietly at her own convenience, the honesty of her repentance would never have been questioned.

However, she seemed to imagine in an evil moment that the other Powers stationing troops in Chihli all had as bad an attack of the "madness of the East Asiatic policy" as Herr Bebel recognized in herself, and stood in the need of the same cure—the evacuation of the North China, which, if Baron von Mumm is rightly quoted, she proposed at the suggestion of the Kaiser.

The other Powers (we politely make an exception of Russia, in whose diplomatic vocabulary a holy word as 'repentance', or anything akin to it seems to be sadly missing, and to whom the question of Chihli evacuation is immaterial, with hundreds of thousands of men within an easily accessible distance of Peking) however, would not take the prescribed cure, reminding Germany that, Herr Bebel's diagnosis holding true only with herself, she should waste no more time or thankless kindness upon the others in trying in vain to force the wrong prescription on them.

Surely enough, they will abandon a few minor outposts within the next 3 months. But this is nothing, for the status quo will be maintained at Peking, Tientsin, Tongku, Changli, and Shanhaikwan.

Not only "the British, French, and Japanese," as singled out for the dissenters, but all the rest of the Powers concerned seem to have arrived at the above agreement in this affairs against the independent course taken by Germany, who in spite of herself even leaves as many as 700 men behind.

The Newchwang Club has addressed a note of thanks to Lt.-Col. Yokura through its Chairman of Committee Mr. Ross Thomson and Honorary Secretary Mr. H. Higgs for his recent gift of the Encyclopedia Britannica which is regarded in the note as "a most valuable addition to the Club's Library still in its infancy."

It is reported that Mr. R. Kurosawa, Deputy Commissioner of Customs, is leaving for Japan in a few days on a short leave. Mr. Kurosawa, we regret to say, has not been in the best of health lately, and it is to be earnestly hoped that the contemplated trip to the Land of Flowers while spring is not yet too old will do him a deal of good in recruiting his health.

We understand that he has been invited to be present at the Grand Army Review to be held in Tokyo on the 30th inst.

Rev. Mr. J. Webster left for Tashihchao yesterday to stop over Sunday.

From information to hand, we learn that the bridge built across the Liao for temporary purposes on the road to Mukden from Hsinmintun was removed on the 10th inst.

營口旅館料理店案內（いろは順）

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷 初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上 源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 千鳥 元神廟街百三十三號 店主 吉住 善藏

料理 沖の島 永世街百六十四號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田 正好

旅館料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街 店主片山小みつ（電話一四五番）

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一）店主 麻田 久二

旅館 大和館 永世街三十四號 店主前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚 勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島 彌助

料理 まんなをし 永世街字二本町三百五十九号 店主 和田 常松

和洋御料理 公樂園 南永世街

東京 生蕎麥一式 東庵 元神廟（電話百五十九）

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主齋藤富次郎

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

爲替相場（四月十四日）
日本向 九十九圓五十錢（軍票百圓に付）
上海向 七十一兩二十五錢（同）
天津向 一〇二圓五十錢
芝罘向 一〇三圓五十錢（百弗に付）

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街
さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡 ?人

御料理並ニ温泉 一力 毎日新湯 營口永世街 店主 堀 万助

和洋料理 松月亭 營口元神廟街一四三号 住松信太郎

料理 都樓 平野町 店主 坂本ちか

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝園 捷

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽俱樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

御料理會席 玉家 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

和洋御料理旅館 滿洲ホテル 遼陽西街西門二一七号 上松榮治郎

日本品最近物價表 加藤洋行
半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢
美濃紙 全 七圓五十錢
仙花紙 全 六十錢
[illegible] 一帖（六十枚）[illegible]

奉天旅館料理屋案內

一和洋御料理 遼東館 遼陽城內東街
本館は遼陽城內第一繁盛の地にあり內外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勸に依り宏莊美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得べく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彥に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

旅館 奉天館 奉天城內鐘樓南大街 奉天軍政署指定旅館（電話一五）

和洋御料理 日清俱樂部 奉天大南門裡大街（電話一四）

商人御定宿 瑞豊館 奉天小西關大街北側 館主 河野嘉吉（電話　號）

會席御料理 高等御旅館 天神樓 奉天小西關大街北側（電話　號）

旅館料理店 日の出樓 溫泉付大勉強キレーデヲイシヒ 奉天小西門通（元紅葉館跡）樓主 大瀨七造（電話十七號）

旅館料理店 日盛館 奉天小西關大街南側 館主 入江熊男（電話　號）

旅館 梅松館 奉天城內灰市街東華門宮殿東側

料理店 奉天大西關高臺子廟前 館主 押尾富次郎（電話　號）

旅館料理店 大和館 館主 今井コノ

旅館 大正館 奉天小西邊門外十間房道北側 館主 大草村行

奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すべき樣に相成居候間御投宿の節至極便宜に御取扱可申上候
高砂館本店 奉天十間房第十五號

旅館御料理 奉高館 高砂館支店 奉天城外廿四號 店主 宇本智平

旅館料理店 日奉館 奉天小西門外大街 館主 原田清五郎

高等旅館 東洋館 奉天大西門外小什字街（電話　號）主任 藤島初野

御料理 梅ケ枝 奉天小西門より一丁西の辻北入 館主 辻井ムメ

旅館料理店 勉強館 奉天小西關外北長發園隣

高等御旅館 茂林館 奉天小西關大街路北（電話二十五號）

全 狀袋 百枚 二十枚續 三錢二厘以上四錢 十三錢以上十八錢 矢野洋行
室內裝飾品及寢具
蒲團 三枚組 六圓以上六十五圓
座ブトン 十帖 六圓九十錢以上三十五圓
[illegible]

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成
營口金城ホテル旅館部

會席御料理 金城館

奉天小西門外 會席御料理 高等御旅館 金城館

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續 事務取扱 但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ
一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大清通運公司 營口支店

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ふも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲け新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

一疊 十枚 二圓六十錢以上三圓 八圓
薄椽 全 一疊敷 三圓
麻緞通 全 三圓五十錢
綿緞通 一圓七十錢
由加多織 [illegible]

NEW ARRIVAL.!!
Nicely decorated China-ware,
Doll pin cushions,
Looking Glasses, Artistic paper lanterns, etc.
S, KATO & Co.

新荷着
寫眞ブック、寫生帖、手帳、不易糊、
久留米絣 信玄袋、時計袋、ヘンカチーフ、
トランプ、歌かるた、碁器、將棊、
窓掛レース、提灯、有明行燈、
蓄音器、ステツキ、下駄、唾壺、理髪道具、
京都松風燒 歐州風陶器、舶來ニツクル台鏡、化粧品
其他味淋、鑵詰等色々參りました。
營口 加藤洋行支店（電話八十番）

工
飯塚工程局材料部
營口元神廟前（電話百三十五番）
弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

自造 煉瓦●瓦 並に各種石材販賣
營口青堆子 加州組（電話八十六番）

大連 東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

西洋家具製造販賣
營口青堆子 清水寧木局（電話九十四番）

美味安價西洋料理 牛莊亭

東營口郵便局東隣 島田洋服店
新民屯停車場前 同支店

會席料理 三日月
營口警務課前南に入る

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.
$4.80 per 6 months.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 八十仙
半ヶ年前金 四弗八十仙
一ヶ年前金 銀九弗六十仙
廣告 二十一字詰一行一回 銀二十仙